

泡瀬干潟にフジイロハマグリ



【沖縄】泡瀬沖合埋め立て(東部海浜開発)事業に反対し、泡瀬干潟の環境保全を訴えている泡瀬干潟を守る連絡会(小橋川共男、漆谷克秀共同代表)は18日、今日8日に開いた干潟観察会で「レッドデータおきなわ」で絶滅危惧Ⅱ種として記載されているフジイロハマグリの生きた貝を発見したと発表した。

泡瀬干潟での発見は2005年の2例に続き3例目。同連絡会は



泡瀬干潟で見つかったフジイロハマグリ。ニライカナイゴウナが表面に付着している(泡瀬干潟を守る連絡会提供)

絶滅危惧種、3例目

生きたフジイロハマグリが見つかったのは埋め立て工事現場の東側で沖合約2キロの地点。同連絡会事務局次長の屋良朝敏さんが採取した。表面には泡瀬干潟で03年に確認された希少種の巻き貝ニライカナイゴウナが付着していた。

フジイロハマグリはフィリピンなど熱帯の太平洋地域に分布し、沖縄地方、奄美地方が北限とされている。泡瀬干潟生物多様性研究会の山下博由代表は「着工以来、泡瀬干潟では貝や海藻が減るなど環境の悪化が進んでおり、今回の発見に驚いている」と話している。